

令和7年 6月 9日

生成系 AI の活用に関する水産大学校の学生向けガイドライン

校長

本ガイドラインは、水産大学校（以下「本校」）の学生が生成系 AI を利用する際に留意すべき事項を示すものです。生成系 AI は近年急速に発展し、情報収集、文章作成、ソフトウェア開発などの分野で対話的かつ自動的に生成するツールとして活用されており、業務の効率や生産性を大幅に向上させることが期待されます。従って、今後の社会では、生成系 AI を効果的に活用できる人材が求められると考えられます。

しかしながら、生成系 AI には多くの課題が存在するため、十分な理解がないままに安易に利用すれば不利益を被るリスクがあります。

そのため、本ガイドラインでは、本校の学生が生成系 AI を学修や研究に利用する際に、留意すべき事項をまとめました。生成系 AI を活用する前に、必ず確認をしてください。

1. 生成系 AI とは何か

本ガイドラインで示す生成系 AI とは、深層学習（ディープ・ラーニング）という技術を応用することで、新たなコンテンツを生成する人工知能を指します。生成系 AI は、インターネット上などの既存の情報を学習することで情報のパターンや特徴を獲得し、それに基づいて新たな文章や画像などのデータを自動的に生成することができます。

現在、多くの生成系 AI が誕生していますが、中でも Microsoft Copilot、ChatGPT、Gemini といった生成系 AI は、文章のみならず画像も対話的に生成可能です。ここで重要なことは、生成系 AI は学習させた膨大なデータに基づいて新しい情報を生成していることです。つまり、現段階の生成系 AI は人間が作った文章や画像の情報を基にしているだけで、人間のように無から有を創造する能力は持っていない、ということを留意しておいてください。

2. 生成系 AI の利用で注意すべきこと

生成系 AI の利用は学修や研究の助けとなるだけでなく、今後の社会では生成系 AI を活用できるスキルも必要となってくるでしょう。しかし、リスクを考慮した上で利用しなければ、不利益を被り、自身の学修機会を損なう可能性があります。以下に生成系 AI の利用で注意すべき点を記しますので、よく読んで注意をするようにしてください。

（1） レポートや研究発表・論文の作成で注意すべきこと

レポートや研究発表・論文の作成で生成系 AI を利用する場合は、あくまで参考として活用し、AI が提供した情報の正確性を自ら確認し、独自の視点や考察を加えながら文章を作成することが求められます。また、AI で生成された文章や画像には明らかな誤りや偏見、著作権侵害、プライバシー侵害、倫理的問題を含むこともあります。このため、AI の回答の出典を確認し、複数の情報源を照合した上で、自分の言葉で表現し直すことが重要です。学術的な文章は、自分自身の責任のもとで執筆するべきものであることを常に意識してください。

（2） 個人情報や機密情報を入力しないこと

生成系 AI は、我々人間との対話を通して情報を生成しますが、その対話の際に入力した文章を学習します。学習することでその対話の内容が、別の人の質問の回答として生成されること

もあります。つまり、あなたが対話した情報が他人に漏洩する可能性があります。このため、個人情報やプライバシー情報等を生成系 AI との対話で入力してはいけません。また、生成系 AI の多くは外部企業（Copilot であれば Microsoft 社）のコンピュータ上で動作しているため、個人情報や研究内容等の機密情報を入力すれば、外部企業への情報漏洩にもつながります。さらに他人の人格的利益や権利を害することを目的とした虚偽の情報も入力しないようにしましょう。AI と対話した内容は他人に漏れてしまう、ということを留意してください。

（３） 創造する力と思考を大切にすること

生成系 AI に頼りすぎれば、創造力と思考力を養う機会を失うことになりかねません。人間には無から有を創り出す素晴らしい創造力が備わっており、その創造力を発揮する補助として生成系 AI が存在している、という認識を持ってください。生成系 AI にすべてを頼らず、自分自身の創造力やアイデアを尊重し、自分自身で問題を解決する思考力を磨く努力も怠らないようにしましょう。

（４） リスクを十分に理解して活用すれば良い学修ツールとなる

上記のとおり、生成系 AI の利用には様々なリスクがありますが、一方で活用できるようになれば、学修や研究の助けになります。生成系 AI を活用するならば、まずはこのガイドラインを読んで生成系 AI のリスクを心に留めてください。またレポートや研究発表・論文作成のために利用する場合は、授業担当教員や卒業論文等の指導教員の指示に従ってください。

生成系 AI を理解して活用すれば、知識の幅を広げるだけでなく、クリティカルシンキング（物事の前提や根拠を批判的に疑い、課題や問題の本質を深く考えること）ができる力が養えます。例えば、生成系 AI の回答の正誤をチェックするうちに、質問する内容のバックグラウンドを勉強しますし、回答を批判的に見ることで真の回答について深く考えるきっかけになります。このように、リスクを十分に理解して活用すれば良い学修ツールとなります。

３．最後に

生成系 AI は驚くべき能力を持っていますが、生成系 AI はあくまで補助的なツールであり、我々人間がその技術を効果的に活用する立場に立つべきです。AI の力を引き出すのは人間の創造性と知識であることを念頭に置いて、学生の皆さんには生成系 AI を正しく理解・利用するとともに、生成系 AI を使いこなすことで水産業における未来の革新を切り拓いてください。

なお、生成系 AI の使用方法に関しては社会的な規範が確立されていない中で、その技術は急速に進化を続けているため、リスクについても変化する可能性があります。そのため、本ガイドラインについては、状況に応じて、必要が生じた場合にはその都度、必要な見直し・改訂を行うものとします。